

## 静岡県連・40周年記念山行報告書

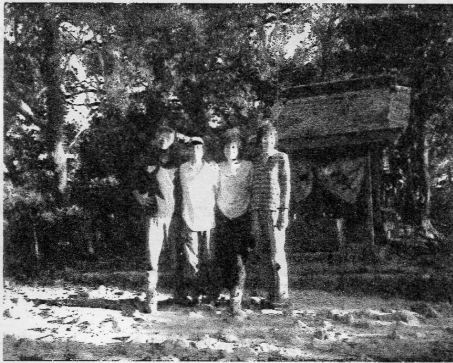
会名	裾野麗峰山の会	報告者	加藤秀子
年月日	2005年10月2日(日・晴)		
山名	下田富士(191.0m)		
地図	下田(2万5千図を141%に拡大してあります)		
体力度=楽	技術度=楽	藪漕度=ない	道標=ある
展望度=伊豆の山・太平洋が素晴らしい	三角点=ない	トイレ=ない	頂上携帯=OK
<h1>下田のmatterホルンに上る</h1>			
コースと タイム	登山口6:00—頂上6:45—登山口7:00		
標高差	上り=登山口0m～下田富士191m=約190m 下り=同上		
参加者	CL・後藤隆徳、加藤秀子、嶋本五十鈴、小田知典、加畑国衛(快体ハイク)		

— 海岸に近いせいか風が強い。外のパタパタと揺れる木で目が覚めた。夕べは久し振りの小田ちゃん達と、いいお酒をいただき心地よく眠ってしまったらしい。顔も洗わず頭は爆発。まあ、私の髪は皆に言わせると、「雀の巣」「火事場で焼けたの?」「石川五右衛門」「雷にでもあったの?」とか、ロクな事は言われていないから、今更爆発してたってどうって事ないか。と言いながら、それでも自分で嶋本に「髪乱れてる?」と聞くところが可愛らしい。?! それに対して嶋本は「うん?いつもと変わらないよ」・・・う～ん。残酷じゃありませんか。

小田ちゃんの奥様と、息子の真ちゃんがまめまめしく朝ご飯の支度をしてくれた。朝からリッチ!豪華!納豆にわさび漬、かぼちゃの味噌汁(うまいんだなあ。これが)、アジの干物(骨まで食べると後藤さんが煩い)、他エトセトラ。朝ご飯を食べたことがない私としても魚の骨と皮を残しただけで、出されたもの全て頂いてしまった。

食事のあと、下田富士の朝駆けをする。何と言っても登り15分という所が素晴らしい。小田ちゃんの毎朝のトレーニングコースとか。15分といっても、登りは階段状でなかなかきついコースである。腹を満腹にしてから登るコースではない。途中には、カシの大木や炭の木の原料になるウバメガシが群生し、急峻な斜面に、よく真っ直ぐに伸びるもんだと深く感心し、我もこうありがたい・・・と嶋本と共感する。

道はつるつるの剥げた乾いた泥状で、雨の時はよく滑るらしい。所々に点在する岩も乾いたコケがつき、湿ると滑って要注意だそう。歩きながら、立ち木の隙間から、展望が望めるが、町は足元にある。ふうふう言いながら頂上に着くと、正面に古めかしい祠があり、異次元の世界に入り込んだような錯覚を起こすほど、古(いにしえ)の趣が感じられる所だった。さすが、富士の異名をとるだけの素晴らしい形容と雰囲気をもった山である。わずか15分の山なれど、一度は訪れてみたい逸品の山でもあるかな。



下田富士頂上



下田富士

下田の  
マッターホルン

